

【要確認！】2次販売開始後の商品券利用に関する注意事項

1次販売（7月申込分）で当選したデジタル商品券の利用にあたっては、商品券を「A全店舗共通券」と「B店舗限定券」の2枚に分けて、それぞれの対応する店舗でご利用いただいております。

次に、2次販売（9月19日販売開始）で購入していただくデジタル商品券についても、1次販売と同様に「A全店舗共通券」と「B店舗限定券」を保有することになります。この場合、1次販売分の商品券に残額があった場合、下記の表のように①～④の4枚のデジタル商品券を保有していることになります。

販売時期	購入口数	券種別		合計
		残額（円）		
1次販売	5口	①A全店舗共通券	②B店舗限定券	A+B
		30,000	32,500	62,500
2次販売	5口	③A全店舗共通券	④B店舗限定券	A+B
		30,000	32,500	62,500

優先される2枚の券

合計残額
125,000円

※1次、2次販売で5口購入し、全く利用がない場合の例

この場合の利用方法については、注意が必要となり、一度の決済（支払い）において、合計2枚の券のみ利用可能となります。（※一度の決済で①～④の4枚の商品券の同時利用ができません。）また、利用する券の優先順位は、「B店舗限定券」⇒「残額の多い券」の順に自動で支払われることになります。

（例 1）上記の表の場合、仮に「A全店舗共通券」と「B店舗限定券」が利用可能な中小規模の店舗において、125,000円の利用をしたい場合、①～④の4枚の券を同時利用することになるため、利用する事ができません。この場合、合計2券種の優先順位は、「②B店舗限定券」と「④B店舗限定券」となり、一度の決済ではこれらの合計額である65,000円分までの利用しかできません。

但し、PayPay残高又はPayPayクレジットとの併用で125,000円の買物が可能となります。（※商品券分②+④：65,000円+PayPay残高：60,000円＝125,000円）

また、優先順位の高い②、④の合計65,000円までであれば2枚の券の利用となるため利用可能です。

(例 2) 次に下表の様な利用状況の場合では、優先順位は、④と②となり、これらの合計額である 33,500 円までの利用は可能ですが、33,500 円を超えて利用する場合は、不足額分を PayPay 残高又は PayPay クレジットと併用することで、利用できるようになります。

販売時期	購入口数	券種別		合計
		残額（円）		
1 次販売	5口	①A全店舗共通券	②B店舗限定券	A + B
		500	1,000	1,500
2 次販売	5口	③A全店舗共通券	④B店舗限定券	A + B
		30,000	32,500	62,500

合計残額
64,000 円

(例 3) 次に下表の様な利用状況の場合では、優先順位は、④と③となり、これらの合計額である 62,500 円までの利用は可能ですが、62,500 円を超える利用をする場合は、不足額分を PayPay 残高又は PayPay クレジットと併用することで、利用できるようになります。

販売時期	購入口数	券種別		合計
		残額（円）		
1 次販売	5口	① A全店舗共通券	② B店舗限定券	A + B
		500	0	500
2 次販売	5口	③ A全店舗共通券	④ B店舗限定券	A + B
		30,000	32,500	62,500

合計残額
63,000 円

また、A 全店舗共通券のみ利用ができる大規模店舗では、もともとの利用可能な商品券が①と③の 2 枚であるため、上記、例 1～例 3 のような事案は発生しません。

最後になりますが、1 次販売と 2 次販売どちらも購入して、4 枚又は 3 枚の券に残額がある場合は、商品券残高が残っていても、一度の決済において商品券の利用が 2 枚に制限されることによって、PayPay 残高等の併用が必要なケースが出てきますので、1 次販売分の残額をよく把握した上でご利用いただきますようお願いいたします。